

1. 主体的な学び、日常の学習習慣の定着について

- * 日常学習習慣の定着化は、多くの学校の課題の1つである。御校においても課題とされているようだが、ベネッセの結果を参考にした他校比較より、御校自身の生徒一人一人の学習時間が平日は15分、休日は30分増加させるというような、週間・月間の目標設定を掲げ学年として取り組むのも1つの方法である。また、自宅学習を促す仕掛けを工夫することも重要と考える。
- * 導入されているスタディサプリ動画媒体の活用、オリジナル動画配信等 Chromebook を活用した「反転学習」の取り組みもし易くなったと思われるのでより実践的な活用が望まれる。
- * 自宅での学習環境には差があろう。自宅では他に誘惑される事柄も多いと思われる。家庭において監視され、やらされる環境では問題の先送りである。御校で取り組み始めた自習教室は、主体的な学びへ繋げる意味においても重要と考える。

2. 携帯マナー、公共の場でのマナー、いじめ対策について

- * トラブルは人間性を高める絶好の機会と捉えることが教育現場では重要なことと考える。無くすように締め付けるやり方は本来の教育の現場のあるべき姿なのかという甚だ疑問である。締め付ければ締め付けるほど隠し事が増え、問題が根深くなってしまいうという悪循環に陥ると思われる。学校という立場は、対面的なことを気にする傾向にある。ルールありきや禁止するよりも「共同生活を営む上でどういったルールが必要なのか」や「何のためにこのルールがあるのか」を互いに話し合い理解することが大切。道徳や総合的な学習の時間を利用した「課題を与えて問題解決方法を共同作業として探る」取り組みは必要である。彼らから解決策を発信させることが重要と考える。明日は我が身の意識になると、関心度は高まるであろう。皆で知恵を絞りあって解決の糸口を探る機会をつくる必要がある。
- * 本人に解決の糸口を見いだせるような指導も行われる一方、学校がどのようなプロセスを経て解決を図ろうとしているかが生徒たちも分かると、当事者のみならず他の生徒達も含めて学校との信頼関係は深まると思う。また、問題が起こったときにどうしてよいか分からない生徒に対しても解決の糸口になると思う。

3. ICT環境について

- * 環境整備が御校の課題の一つであった。これが整ったことは評価に値する。しかし、ハード面が揃っただけで、ソフト面は入口に達したに過ぎない。これからは、実施と検証および共有が大切になる。何が効率のよい学びにつながるのか、手探りであっても休まない事が大切。
- * これからは、それぞれ ICT 機器を活用した授業実践とその検証を繰り返さず必要がある。広く深い学びに繋がる実践。発信力を高める工夫などを通じて、先生方の実践・検証・共有を繰り返しながら授業改善に生かせるようにすべきである。生徒にとって、どの先生に習っても質の高い授業となるよう、共有することは大切である。